

「東神吉ガイド」



発行 研修部会



かこがわ人の会

平成 28 年 12 月 17 日

目 次

1、瓶落 (みかおち)	P 1
2、神吉の地藏堂 (神吉町内会の由緒より)	P 2
3、那須の与一さん	P 2
4、神吉の常楽寺 (神吉城跡)	P 3
5、真宗寺	P 5
6、こけ地藏	P 6
7、天下原の毘沙門さん (大歳神社)	P 7
8、益気神社 (ますけじんじゃ)・升田	P 8
9、妙願寺	P 9

1、瓶落 (みかおち)

播磨国風土記に「神吉」の事が書かれています。昔、仁徳天皇のころに他田熊千 (おさだのくまち) という人がいました。

播磨の奥地に住んでいましたが、もっといい土地はないかと印南郡の方へ出てきました。

当時印南郡は、人はあまり住んでおらず、山には一杯木が生い茂り、平野にも雑草や、大小の木が生えて道などまともにありません。

熊千はもともとお酒が好きでしたから、自分の馬に大きな瓶を付け、その中にお酒を一杯入れていました。

ところが今の「神吉」まで来たとき、馬がつかずいて前足を折りました。

その拍子に背に積んだ瓶がガチャンと落ち、中のお酒が流れ出てしまいました。熊千は惜しさに茫然と立っていました。

しかしやがて、「これはここに住めと言う神様のお告げかも知れない」と考え直して、近くに家を造り住みました。

そしてこの地を「瓶落の村 (みかおちのむら)」と呼びました。

熊千は、こののち附近を開墾して裕福になりました。

又この「瓶落の村」は、のちに「含芸村 (かむき

むら)」と呼ぶことになりました。という話が民話に残っています。

「かむき」とは、古語で言う「醸酒（かむき）」のことです。又「神酒（かんみき）」のつまったものであると言われていています。

（「郷土の民話東播編」より）

2、神吉の地蔵堂（神吉町内会の由緒より）

この御堂の由来はよくわかりませんが、江戸時代初期のものといわれています。

御堂の大きさは、2間四方、境内地は8間四方の広さがあります。

堂内には中央に石棺に刻まれた地蔵菩薩があり、延命地蔵ともよばれています。

14世紀南北朝時代か、室町時代のものと考えられています。

左側の石仏は、天保年間（1830～1843年）に神吉村字平田の用水路工事の時、石橋の取り替えで、その石の裏に地蔵菩薩が刻んであったので、これを御堂の中の本尊の側に安置したと言われていています。

2体の石棺仏の右側には、お大師様がお祀りされており、お地蔵様とともに、地元の人々に大切に引き継がれています。

3、那須の与一さん

昔、高野山慶妙寺の七堂伽藍が、東神吉町神吉と西神吉町にまたがる地にありました。

七堂伽藍の一つ、釈迦堂が神吉の西の高台にありましたが、天正年間、神吉城落城の時、兵火に会い焼け落ちました。

その跡に石棺で造られた地蔵さんがお祀りされました。それが現在「那須与一地蔵」と言われる石仏です。

那須与一は、源義経に従い、屋島の合戦で、平家の軍船に掲げられた扇を、海中の馬上から弓矢で射落とした話で有名な武将です。

明治30年頃のことです。

曾根村のある人が、那須与一を信じ、毎月7日の那須与一の命日には、須磨附近の与一の墓にお参りをしていました。

ある夜、夢に、「汝、我を信じて遠きよりこの地に参詣するも、我は病中播磨の国、神吉の庄高野山慶妙寺に参籠していたが、ついに落命せり、現在、神吉村の西にある釈迦堂というところにて火葬せらる。すなわち彼の半折れの石仏は我の像なり、これよりはそこに参詣すべし」とのお告げがありました。

その人は、翌日さっそく神吉のその場所に来てみると、夢のお告げの通り、半折れの地蔵さんがお祀りされていました。

それ以来、この地藏さんを那須与一さんとして、深く信仰するようになりました。

遠近の人々はこれを伝え聞き、毎月 7 日には多くの人々のお参りがありますが、それは、ここにお参りすると長患いをせずに済むと言い伝えられているからです。

(「郷土のおはなしとうた第 3 集」より)

4、神吉の常楽寺(神吉城跡)

浄土宗西山禅林寺派の寺院で山号は法性山、本尊は阿弥陀如来です。

正慶 2 年(1333 年)の開基と伝えられています。

創建場所は、現在の西神吉町中西附近にあったとされ、近くの神吉城の菩提寺でした。

天正 6 年(1578 年)、神吉城主、神吉民部大輔頼定は羽柴秀吉の播磨攻めにより、織田信忠に滅ぼされ、落城とともに常楽寺も兵火に会い、諸堂はことごとく焼失しました。

その後、時の住職が城跡に神吉侯の遺骸をまつり、その傍らに御堂を建てて、神吉侯一族の菩提を弔いました。

現在の本堂は、元禄 5 年(1692 年)に再建されました。

本堂裏手の墓地には、勇猛を誇った神吉城主、神

吉頼定の墓があります。

又常楽寺に隣接する西側に、神吉神社があり神吉城の戦いの絵画が掲げてあります。

境内の建築物は、江戸中期の典型的な浄土宗建築であることから、平成 19 年に本堂、薬師堂、山門、鐘楼の 4 棟が国の登録有形文化財に指定されました。

境内には、宗空地蔵があります。延宝年間(1673~81 年)にあった事件で、村の人の身代わりになった雲水宗空の墓と伝えられています。

以下は「郷土のおはなしとうた第 3 集」からの引用です。

昔、平の荘の山から隠が谷の附近は、神吉村田中町の人々と平の荘の人々が共に草刈りや、牛飼いをする場所でした。

ある日、神吉村田中町の人々と平の荘の人々がここで口論を始めました。

口論のあげく、殴り合いのけんかとなり、誤って平の荘の人、2 人を殺してしまいました。

平の荘の人々は、死んだ 2 人の身代わりに、神吉村田中町の 2 人の命を奪うと言いました。

神吉村田中町の人々は、「こちらも 1 人討たれて死んでおります」と言いました。しかし、もう 1 人の身代わりがありません。

この時、村に住みついていた貧しい旅僧が「私が身代わりになりましょう」と申し出て、相手方に行

きました。

平の荘の人々は、この話を聞き、この人を憐み神吉に返しました。

神吉に返された旅僧は、その後も神吉村田中町で食を乞うて日々を送っていましたが、間もなくこの世を去りました。

村人たちは、この人の為に地蔵を建てました。

その後享保 6 年 (1721 年) にはお堂を建立してお祀りしています。

5、真宗寺

真宗大谷派の寺院で、山号は白雲山、本尊は阿弥陀如来です。

もともと別の場所にあったそうです。

神吉城・神吉頼定の叔父神吉信常が、真宗寺の大檀那であった関係から、元和元年 (1615 年) 寺を神吉城西の丸跡に建立されました。

同寺は、四百年近い歴史があり、本堂と鐘楼堂の痛みが激しく、2013 年改築に着工 2015 年 4 月には「工匠式」が古式ゆかしく執り行われました。

室町時代初期に造られた六地蔵石幢、家形石棺の蓋石が再利用された手洗用流し台があります。

真宗寺には、神吉城の戦いで大活躍をした武将・梶原冬庵の墓碑があります。

6、こけ地蔵

平荘湖に行く道路 (県道 387 号線) のそばに、大きな石棺の蓋に彫られた地蔵があります。

南に約 45 度傾いています。倒れてしまわないのは、椿の木がしっかり支えているからです。

「こけ地蔵」のこけは、植物の苔ではなく、播州弁で倒れると言う意味です。(高さ 140 cm・幅 110 cm・厚さ 35 cm)

10 世紀の中ごろ、陰陽師 (当時、天体の動きから吉兆を占う者) として活躍した安倍清明がいましたが、そのライバルに芦屋道満がいました。

道満は現在の西神吉町岸に屋敷がありました。

京都で藤原道長を呪い殺そうとした道満は、清明との術比べに敗れて、生国播磨に流罪となりました。

上京する前に道満によって、井戸に閉じ込められた式神 (陰陽師の命令によって、呪いや妖術などを行う神) は、火の玉となって井戸を飛び出して、三百年から四百年もの間毎日道満を探し求めたと言います。

ある夜、火の玉はかって道満が修行の場としていた升田山古墳附近で、そこに懐かしい石棺の蓋が立っていることに気が付きました。そして彫られた地蔵に体当たりをしたので、地蔵は倒れてしまいました。

村人が立て直すのですが、翌朝には倒されている

ことの繰り返りで、そのため「こけ地蔵」と呼ばれるようになったという民話が残っています。

東神吉町には、「こけ地蔵」以外にも多くの昔話、民話が残されています。

7、天下原の毘沙門さん（大歳神社）

弘化3年（1846年）に建てられたと言われている。

鞍馬山の岩肌に彫刻された磨崖仏の毘沙門天が御本尊です。

言い伝えによると、御本尊が磨崖仏の毘沙門さんというのは、日本に三社しかないうちの一社であると言われています。

神社の付近には樹木が茂り、急な石段を登りきると境内からはウエルネスパークをはじめ、閑静な東神吉の町並みが一望できます。

春の桜、秋の紅葉が美しい所です。

天下原という地名の由来については、天平勝宝6年（754年）天人が降りてこられて、羽衣をかけたところからと言われています。

又一説によれば毘沙門さんが天から降りてこられた土地だからとも言われています。

8、益気神社（ますけじんじゃ）・升田

祭神は泥土煮命（ういじにのみこと）記紀に登場する天地生成の神様です。

泥や土が神格化されたものらしいです。

由緒によると、当社氏子の升田、砂部は初め出河原、池尻とともに、平荘村山角なる郷社の平荘神社の氏子でした。

文禄3年（1594年）、秋季例祭で故あり分離することになり、平山史郎兵衛なる者霊代を奉納して升田村に一祠を建て奉斎する。

翌年文禄4年（1595年）社殿を造営されました。

寛永3年（1626年）池尻村に、寛永17年（1640年）出河原村に社殿を建造し、升田の益気神社より分霊しお祀りされています。

明治7年（1874年）村社となりました。近くに3ヶ所も同じ名前の「益気神社」があり、昔から土地の人にとって、いかに大切な神様であったかと言う事が想像できます。

境内は白い土塀にかこまれており、珍しい景観になっています。

土塀は境内の狛犬と同時期、安政7年（1860年）ごろに造られたと言われています。

東神吉町の数多くある神社の殆どが、西神吉町の神吉八幡神社がお世話されています。

西井ノ口大歳神社のみ生石神社になっています。

9、妙願寺

浄土真宗本願寺派の寺院で、山号は音谷山（おんこくさん）、本尊は阿弥陀如来です。

前身は、妙願寺より約 800m 西、升田西脇にあった佐伯寺と伝えられています。

今も屋敷跡が残っており、地藏堂と五輪塔があります。

天正の播磨攻めの時、七堂伽藍ことごとく焼失し、佐伯寺は無くなったと言われています。

やはり神吉一族との関係の深い寺だったようです。

佐伯寺の本尊だった阿弥陀如来が、現在の妙願寺の本尊と言われています。

正徳3年（1713年）現在地に建立されました。

又、佐伯寺の梵鐘は、天正の播磨攻めの時奪われましたが、三木市久留美の慈眼寺に現存しており、「播磨印南郡益田村佐伯寺延慶2年（1309年）」の銘があります。

妙願寺の住職は岩階姓ですが、近くの八十の岩橋を連想します。

MEMO 1

